

2018年度 第1回 鋼構造座屈小委員会議事録

1. 日時 平成30年6月29日(金)14時30分～16時30分
2. 場所 建築会館・本会会議室 305号室
3. 出席者 井戸田秀樹, 五十嵐規矩夫, 宇佐美徹, 倉田真宏, 木村祥裕, 城戸將江,
末岡利之, 田川浩, 竹内徹, 中澤祥二, 松井良太, 金尾伊織(記録)
オブザーバー 佐藤篤司, 佐藤公亮 (敬称略, 下線は欠席者)

4. 配付資料

- 01-01 2017年度第4回鋼構造座屈小委員会議事録(案)
- 01-02 座屈小委員会2017年度資料一覧 (木村)
- 01-03 座屈論文リスト (城戸)
- 01-04 座屈論文まとめ (城戸)
- 01-05 座屈に関するこれまでの研究 シェル・空間構造 (中澤)
- 01-06 スタッドがスラブ付鉄骨梁の横座屈挙動に及ぼす影響 (宇佐美)

5. 議事内容

資料01-01

- ・ 資料01-01に基づき前回議事録の確認を行った。
- ・ 資料04-02に関する記述について、修正意見が出された。
- ・ 上記を修正することで、議事録は承認された。

新任委員の紹介と挨拶 (城戸委員, 末岡委員, 中澤委員)

資料01-02

- ・ 主査より、2021年の「鋼構造の座屈に関する諸問題」の刊行を目指し、2019年度PDに委員会として立候補する意向が説明された。
- ・ 資料01-02に基づき、昨年度の委員会で提出された資料を参考に、PD案を検討することが説明された。
- ・ 柱の論文を提供して欲しい旨が説明された。

資料01-03, 01-04

- ・ 資料01-03, 01-04に基づき、城戸委員から、座屈に関する研究内容が紹介された。
- ・ 論文の中から、「均等なブレース付き骨組の柱材の実用座屈長さ評価式」に関して、ブレース付骨組に対して、水平移動の評価をする方法が説明された。
- ・ 実務において活用できる具体的な事例を挙げて欲しいという要望が出された。

資料01-05

- ・ 資料01-05に従い、中澤委員から、シェル・空間構造の座屈に関する研究内容が紹介された。
- ・ 空間構造は、固定荷重・雪荷重の設計が重要であり、座屈荷重の分析が重要であり、個材座屈と全体座屈を考慮する必要性が説明された。
- ・ シェル・空間構造の座屈に関する論文を提供して欲しいという要望が出された。

資料01-06

- ・ 資料01-06に従い、宇佐美委員から、スラブのねじり剛性を評価する資料が紹介された。
- ・ 旧指針による完全合成梁の必要スタッド数の半分を有する不完全合成梁の実験結果について説明し、耐力は十分であることが説明された。なお、実験装置の特性から材軸方向に拘束されるため、梁の横座屈による耐力低下が抑制される効果について指摘された。
- ・ スタッド本数をパラメータとした数値解析からスタッドの負担水平力を算定し、スタッドは圧縮負担面積の降伏軸力の1.2%程度しか負担していないことが説明された。

その他

- ・ 実務的な事例を紹介して欲しい要望が出された。

6. 次回小委員会予定

座屈小委員会 : 2018年11月9日 (金) 14:00~16:00 名古屋工業大学

WG : 2018年11月9日 (金) 16:00~18:00 名古屋工業大学